

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273400307		
法人名	有限会社 憩		
事業所名	グループホーム 憩		
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1708番地1		
自己評価作成日	令和3年 12月 13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設周辺は、緑豊かでのどかな田園風景に囲まれており、車の往来も少な安全が確保しやすい施設内庭～周辺が毎日の散歩コースになっております。畑仕事をしているなじみの近所の方々と挨拶を交わしたり、短い会話を交わすなどの気軽なふれ合いがあります。野菜や果物を頂いたり、お裾分けしたりもあり、昔ながらのどかで心とらぐ近所付き合いが残っております。又、食事作りでは、利用者さんの献立を中心にホーム畑で栽培している新鮮な野菜は欠かせません。適度な活動や日光浴・自家製米・味噌・野菜等を取り入れた食生活で健康を維持して行く事をねらいにしております。ご家族や外部の方々、ボランティアさんなどが、気軽に何時でもおいでいただける雰囲気作りや、ご家族が心身の状態等を常に把握出来るように連絡を密にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「ゆったり楽しく一緒に 1. 近所、地域住民や家族とのふれあいを大切にします。2. 自然の恵みに感謝し、健康で笑顔のある日々を大切にします。」として、ホーム内に掲示し、ホームページにも掲載している。利用者は掃除、洗濯物たため、食事の下拵えや食器洗い、後片付けなどを職員の見守りのもと、おこなっている。残存機能を維持するよい取り組みだと思われる。看取りについては「看取りに関する指針」として考え方を定め、入居時に本人・家族に説明をしている。終末期が近づいた時点でカンファレンスを実施し、利用者、家族に寄り添えるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきゆったりした時間を過ごせるようにスタッフもコミュニケーションをしたり家族との繋がりを大切にしております。又近所の方はなじみの関係で挨拶や言葉を交わす関係づくりに努めております。	理念は「ゆったり楽しく一緒に」としてホーム内やホームページにも掲載し周知している。管理者は利用者と共にあること、目を見て会話することを職員に徹底している。直近では、理念について職員に聞き取りをして話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して近所の方々と言葉を交わす場面がありますので、なじみの関係作りになっております。敬老会には毎年参加しており、近所の方と会って会話する場面もあり、交流する機会になっております。	コロナ禍で制限しているが、近隣の公園へ行ったり、敬老会やグラウンドゴルフのサークルへの参加、夏祭りにはおみこしが敷地に来てくれたりなど、近隣との交流が盛んであった。コロナ禍の現在は近隣の散歩と庭での外気浴などを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症が増えてきている現状が反映された現象か電話で認知症を抱えている方の相談や見学を希望が増えてきている。認知症を抱えている方の実像を理解してもらいたく、グラウンドゴルフにも参加していきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月置きに開催し、年6回行う中で常に施設内利用者の変化を伝え、そこでの意見を介護で実践できるように取り組んでいる。より多方面からの参加を頂き、意見をケアの中に取り入れていけるように取り組んでいる。	今年度は書面での報告としているが、例年の運営推進会議には家族代表、区長、民生委員、市の担当者などが参加している。ホームや利用者の状況および身体拘束適正化委員会の報告などを行っている。	運営推進会議は書面報告としているが、書面でのやり取りの機会に利用者家族をはじめ、広く参加者からの意見をもらい、双方向の会議とすることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の高齢者担当職員の参加を頂き利用者の心身の状態を報告している。意見を聞いたり、提案なども受け止めてもらって連携を図っている。毎月市の相談員が来所して、個人、個人の利用者の意見を聞いてくれ、施設に反映される。	市の担当者には何かあれば相談をしている。また、市主催の勉強会が年に数回開催されており、ホームからも参加して、地域のいろいろな業種に人たちと情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名の玄関鍵対応の方がおりますが、どうしてもやむを得ない理由や状態を常時観察しながら鍵対応の時間を短くしたり施錠しない対応の日をもうけたりして、身体拘束をしないケアの方向に努めている。	「身体的拘束適正化のための指針」を策定し、基本的考え方、報告方法、発生時の対応などを整備しており、対応手順も職員に周知している。身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施し、研修は年に2回実施している。現状の対応は記録を丁寧に残して改善策などを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修を通して、虐待についても絶対してはならない意識を持って日々のケアに努めております。入浴時や更衣介助の際に身体の外傷がないか確認しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の方には成年後見制度を利用されている方がおります。毎年増えてきており、親族の方が後見人になっている方や、それ以外の方など定期的に面会に来られておりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書を元に説明を行い疑問に答えています。利用者への介護内容などその都度その都度家族へ相談し、納得を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の方へは運営推進会議活用してお伝えしております。家族には毎月お便りをお渡しして心身の状態をお伝えしておりますので、面会や外出時に意見などを伺っております。ケアプランの見直しの際は直接伺ったりしてケアに反映させております。などで意見を聞き、話を聞くようにしております。	日常的に電話や訪問時に意見を受けている。利用者家族には、月次のお便りで医療情報などを含めた近況を写真を添えて報告しており、その都度意見を募っている。家族がボランティアで参加することもあり、意見交換の機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別時間は設けてはいないが、代表や管理者はスタッフの要望や意見を聞き取る機会が日常的にあります。利用者に関しても、設備的な事も意見が反映されることは多々あります。	申し送りなどを利用して、日常的に話し合うことができている。直近では職員の意見の聞き取りのためのミーティングを実施した。今後は定期的に実施する予定である。意見は反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『施設で働く人が一体となり経営の健全化と満足感のある職場を目指す』を基本方針に職員が日々安定した生活が送れる様努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県保健福祉部・千葉県社会福祉協議会・全国GH協会・介護労働安定センター・君津健康福祉センター・袖ヶ浦市地域包括支援センター等の研修に常勤・非常勤問わずに各自の立場・経験に見合った研修を受講させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着・小規模ケア推進協議会・全国認知症グループホーム協会・袖ヶ浦市社会福祉協議会に加入し、他事業所との交流を深められる場面があれば、積極的に参加出来る様に配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活の様子を知り、入所希望の面談の際にはご家族より状態を伺っておく。入所してから様子をを見守りながら、施設の生活に慣れて頂くように受容ケアに努め、本人の状態を観察しながら訴えは可能な限り聞き入れていく体制を作っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際にも家族の意向を踏まえサービスを考えます。面会に来た際にも日頃の様子を伝えながら家族の話も聞きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、家族の要望を聞き対応しておりますが、方向性の決まっていない相談者の場合にはサービスを利用しながら対処して行く事を進めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶や食事を一緒に摂り、家族の一人として接しています。困ったことや疑問があった時なども話を聞いて一緒に解決するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月心身の状態や往診時の内容を含めて写真入りで送付しております。利用者へのケアについてお伝えし、何か問題が見られた時などは家族に確認を取りながらケアして良い関係づくりを行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人本人の使っていた家具なども使い、昔なじみの物事を感じられればと思います。また、以前の住んでいる場所に行ってきたり、近所の方が訪問された際にはゆっくり過ごしていただけるよう雰囲気づくりを行っております。	コロナ禍以前は法事や行きつけの美容院に行く、自宅への一時帰宅など自由におこなっていた。電話の取次ぎや手紙のやり取りの支援などもしている。感染予防対策を徹底したうえで、家族等との居室での面会を可能としている。また、オンライン面会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに見知らぬ同士ですが、同じ地区に住んでいたことでつながりの会話ができたり、それぞれが思い出話しても同じ世代に共通の話題がみられつながりを感じて、孤立感の解消になっております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、該当者はいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本来、各個人で過ごす時間は、マイペースを尊重しております。食事やその他のお手伝い、レクレーションへの参加も各自の能力に応じて行い、個性・積極性を尊重しております。	思いや意向は普段の会話や様子などから把握に努めている。また、行事への参加などは、本人の意向を尊重し、無理強いしないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やかかわりのある人から、今に至るまでの経緯を聞き、又本人との会話から暮らしの様子を探ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子から変化がないか、身体能力を見て、ご自分で出来る事をして頂くよ関わっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、利用者に対しての課題を話し合い必要であれば3者で話し合いを行い、日常のケアと病院など連携を取り計画を立てております。	利用者・家族の意向を踏まえ、担当者会議等で利用者の課題を協議して、介護計画を作成している。医師や看護師の意見も参考にしている。利用者の変化に応じて見直しており、モニタリングは月1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施表、普段の様子などを記録した物などで情報を共有し、スタッフ間で話し合いをします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携体制により、入居者の健康を維持出来る様な柔軟な対応をしている。隣接している訪問介護職員の介護技術をアドバイスして頂く事もある。さらに多機能を生かす取り組みとして現在「共用型」通所介護の開設予定です。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアセンターを通じてお手伝いを頂いたり、市政防災課にSOSネットワークが構築されており、行方不明等警察に連携が取れるようになっています。消防署とは避難訓練・救命講習等ご指導を頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医から、風邪薬等の処方を受け、往診を受けますが、すでに主治医にかかりつけなど、その方に応じて医療を受けて頂いております。	ホームのかかりつけ医が月2回訪問診療をしている。専門医の対応は家族に依頼しているが、必要に応じて職員が同行しており、医療情報は家族とも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体や医療機関受診等の情報を知らせその場でスタッフが出来る事に関して指示を仰ぎます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、家族と経過を見ながら病院関係者と情報交換し、家族の希望や医師との話し合いを持って安心して入院して頂ける様にしております。退院においても、なるべく早く退院出来る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さんの心身の状態は毎月のお知らせを写真も同封しながらお伝えしております。状態の悪化や介護の範囲を超える状態に近づいた際には家族の意向を確認し、終末の場合はサインを頂いております。	重度化の対応指針、看取りに関する指針を入所時に説明し、同意を得ている。看取りの時期が来た時には、医師から家族に説明して意思を確認している。看取りの実績があり、体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者さんに避難の意識を持って頂きたいと訓練日を増やしております。日頃の散歩の機会が防災訓練の一つになっていると思います。消防計画書を元に設備点検と自主的に避難訓練を行って行く計画を立てております。	昨年度指摘があったマニュアルについては作成し、年2回避難訓練を実施している。食品、水は3日分備蓄し、発電機も設置している。	引き続き、地域との協力体制を検討することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生き方、生活、性格から傷つけない声掛けやかかわりを持つように、心がけております。	一人ひとりを尊重し、「ゆったり楽しく一緒に」を大事にしている。トイレ誘導、入浴時も周りに配慮して声かけをしており、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく、話を聞き本人がどうしたいのかを引き出す関わりを持つようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたい、外を歩きたいなど、成るべく要望に沿うようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服など、外出や受診時の際、選ぶのを迷っている様でしたらアドバイスし、散髪は2ヶ月毎にカットボランティアさんに来所してもらっております。好みもありますので、ご家族に同行して頂いたり、職員が付き添って買い物をしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューなど一般家庭の様に要望を聞き、下準備や片づけなど出来る範囲一緒に行って戴きます。	ホームでは食事を大切にしている。野菜はホームの菜園で取れた無農薬の野菜を使っている。献立は利用者の希望を聞きながら決め、利用者もできる事に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はその方に合わせ、食事以外にも水分を取って頂くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアは職員が付き添う事で、どの位磨きが出来たか確認しながら清潔保持に努めております。歯牙の状態によって歯科受診を行っております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況は短期間で状態変化し、失禁へ移行するため常に確認が必要です。定時でトイレ誘導を行ったり、排泄状態を見ながら、個別に尿便の失禁対応に努めております。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、自立に向けて、一人ひとりに合った支援方法を考えて対応するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態をコントロールするのは水分補給を十分に利用者さんに分かって頂き、摂取して行かれるように努力しております。特に朝起きたときに直ぐに飲んで頂くようにしております。状況によって薬を服用する対応を主治医に相談して行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回 自立の方、一部介助見守りで入浴できる方全介助の方に分けてゆっくりと入って頂くように午前中に時間帯をもうけて行っております。	週2回、利用者の状況に応じてゆっくりと入浴できるようにしている。入浴をしたくないという人には無理強いせず、日を変えて支援することもある。入浴は職員と利用者がコミュニケーションを取る時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日の光を浴び、体内リズムが働く様に午前中の散歩を心がけ、落ち着いた気分、入眠して頂け湯用に心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬一覧表を常に確認できる状態で、服薬の変更があれば、申し送り服薬中の様子を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、外食、カラオケ、すべてではありませんが、一人ひとり楽しいと思ってもらえる働きかけをしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物やドライブ等で対応をおこなっておりますが、今回のコロナウイルスによる外出制限で自宅に時々戻られ近所の方とお会いしたり近くのコンビニへの気晴らしに買い物をして時間を自由に使ってから職員が迎えに行く事までできてました。	コロナ禍で外出支援が難しくなっているが、職員も様々な工夫をして、ホーム周辺を散策したり、外気浴をおこなうなどの支援に努めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は出来ませんので、支援すると出来る方にはその都度買い物時にお金をお渡しして購入して頂くか、レジの支払いは職員が行い好きな物をかごに入れて頂くようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限はありませんが、明らかに自分で対応できない方については、スタッフが中に入り、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いを出さぬ様、こまめな清掃と換気で対応し、リビングに於いては音楽を配して心地良さを感じて頂ける様に配慮しております。	玄関口には職員の写真と名前を掲示し、家族等に周知している。共用空間の温度や湿度も快適に過ごせる様に調整されている。また、浴室やトイレも含め、掃除が行き届き整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方によって家具や小物も違います。気の合った利用者同士の自室を往来する交流があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家にあつたのものを継続して使用して頂くのを基本にしております。本人から必要だと要望のあつたものに関して、家族に購入をお願いするか代行で買って来て使用して頂いています。	居室は自分で清掃をする利用者もいる。利用者は使い慣れた家具等を持ち込み、利用者の好きなように配置されている。壁には写真等が飾られて、それぞれが居心地の良い居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かず、洗濯物などをたたむ等日常的に家事に成るべく参加して頂いています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと